



農業経営者（トマト栽培など） 萩原 誠明さん・梢さん に聞く

萩原 誠明さん、梢さん

30歳の時に脱サラし、美味しいものを作りたいとの思いから、神奈川県から移住。市内での農業研修を経て、平成23年2月に県の認定就農者となり就農。

今では、生食用トマトなどを栽培し、農協や道の駅あいつなどに出荷している。

現在の経営状況などをお聞かせください。

誠明さん トマト（生食用大玉）約20㍗、ナス、ズッキーニなどを栽培しています。

トマトの出荷先は、主に農協でそのほかのナスなどについては、道の駅あいつや直販など、消費者に直接販売しています。

当初は、美味しいものを作りたいとの思いから、無農薬栽培での農業経営をはじめましたが、生活できるレベルまでの栽培技術を習得できず、また、慣行栽培でも美味しいものを作っている方を知り、現在の経営体系となりました。

取り組みのきっかけは。

誠明さん 私は、以前サービス業をしていましたが、何か物を作りたい、とりわけ美味しいものを作ってお客様に喜んでいただきたいの思いに駆られ、農業をはじめました。

この地に辿り着いたのは、住まいと農地をセットで借り受けられたことが大きな

要因です。

梢さん 私は、当初勤めに出ようと考えていましたが、地元の方との会話の中で、「農業は、女性が引く張っていくものだ。」との話に心を打たれ、夫との就農を決意しました。

経営の中での特徴的なことを教えてください。

誠明さん 作物の出荷にあたっては、農協への出荷だけではなく、消費者の顔が見える直販にも取り組んでいます。

エピソードなどお聞かせください。

誠明さん 2年前のゲリラ豪雨で畑が冠水し、3週間ほどトマトの収穫がほとんどできなかったことがありました。

梢さん 夫とパイプハウスの設置をしているうちに、筋力がつき、今では握力が40詰程度となっています。

男女共同参画社会について。
梢さん 農業はもちろん、

家事も平等に分担して取り組んでいます。

また、集落内には女性でトラクターや草刈りなどの農業機械を操作している方もいて、刺激を受けています。

今後の展望についてお聞かせください。

誠明さん 今後は、農協の合併に伴い、トマトの選果場が整備される予定となっているので、省力化を図りながら規模を拡大したいです。また、直売や加工も手掛けていきたいです。

さらに、将来はこの地に家を建てたいと思います。

萩原誠明さん、梢さんの活動は市ホームページにも掲載しています。

問 企画調整課 政策調整室
企画調整係

☎(24)5209

